

2日目

文・浜道 写真・後藤、浜道

08.02 (日・無風快晴)

槍平発5:02—最後の水場5:54—千丈分岐6:47—千丈乗越7:20—西鎌
尾根分岐8:36—槍ヶ岳頂上9:10—槍ヶ岳山荘9:55~10:30—大喰岳
(おおばみだけ)10:50—中岳11:29—南岳13:04—槍平16:13 (泊)

標高差 上り 槍平小屋約2000m~槍ヶ岳=約3180m=約1180m
南岳まで上り数回あり

下り 槍ヶ岳3180m~槍平小屋約2000m=約1180m
南岳3033m~槍平小屋約2000m=約1033m

コース 千葉・浜道・掛橋=槍~南岳~槍平、後藤・長谷=槍~槍平

朝夕食付の小屋泊は女子二人だった。4時起床。5時出発。小屋の朝食は5:30。出発時刻に間に合わないの、朝食はお弁当にしてもらった。ご飯の量が大きい茶碗二杯分くらいぎゅうぎゅう詰めで、とても食べきれない。このご飯をおにぎりにしても良かったと後で思った。夏の山行の食糧はなかなか考えることが多い。メンバーとも話題になった。今後の課題である。

5時にテントの仲間と合流して出発の予定だったが、テント場まで行くのに2分程遅れてしまいCLは出発した後だった。待ってくれていた仲間と急いで追いかける。

槍平小屋(1985m)から北上し飛騨沢に向かう。樹林帯には植物が茂っている。ゴロゴロした石の道を1時間ほど上ると「最終水場」(2210m)という湧水に到着。冷たい水を一服頂戴し、先を急ぐ。30分程上がった所に2400mという立札を過ぎると、視界が急に広がった。この飛騨沢には届かないが、近隣の山々の頂きが太陽に照らされて美しい。ここから傾斜がきつい。

200m位上部に行く高校生の団体が列をなし乱れることなく、ぐんぐんとお花畑の中を小気味よく上がって行く。何か清々しく感じた。心がくすぐられる様だ。きつい傾斜の花畑だが、可憐な花の写真を撮るため立ち止まり、笠ヶ岳を見て立ち止まり、ボチボチと堪能しながらの上りだった。苦しい身体をごまかすのも上手になったものだ。立札から20分程上がった所が千丈乗越(せんじょう・のっこし)分岐(2550m)だ。

そこには「救急箱」と称するお助け箱がある。救急用品は登山者が当然持っていてよい品ばかりだったが、有難い事だ。

小休止してから左に巻いて千丈乗越方面、西鎌尾根から槍ヶ岳を目指す。出発から2時間位経過。西側の笠ヶ岳はすっかり明るくなって稜線がはっきり見える。あともうひと踏ん張りだ。30分上がる。すると夏の太陽が大きく照らしている千丈乗越というロケーションの素晴らしい場所にいきなり出る。

急に暑い。日本列島酷暑日続きで今年は特に大変なのに、思い切り太陽と向き合ってしまった。その逆光の中、槍ヶ岳の穂先がやっと見えた。前方を歩いていた高校生たちが数人ザックをデポして歩き始めた。私たちは15分休憩。CLは遠方の山々を教えてくれる。Tさ



千丈分岐の救急箱

下のピークは
奥丸山



千丈乗越



んやK嬢はとても楽しげだ。鹿島槍、白馬、剣岳、薬師、黒部五郎、三俣蓮華、双六岳、白山、日本海が見えるか見えないか?!この天気の良いのお蔭である。

太陽を目指すように目の前にある大きなごつごつした岩をググッと上がり 岩に「槍」と書いてある横を通過。あ、槍ヶ岳が近いのかな!と期待する。少し嬉しい。尾根の北側(千丈沢)には雪渓が残っている。だんだん花も少なくなりガレ道を上がり続ける。最後にぐっと上がった所であれが槍? 8時20分。出発から3時間20分。CLが あっちが子槍で真ん中が孫槍と教えてくれた。西鎌尾根からの槍ヶ岳はちょっと幅広だ。槍ヶ岳肩分岐まで足取りが軽くなり、いよいよ本番だ。

小休止、ヘルメット装着して、8時50分アタック開始。H嬢と私はザックをデポ。テン泊組の強者はザックを背負っていく。落石や滑落があって自分が巻きこまれた時、ザックが緩衝材になり有効になるとのことだ。上部の梯子まで、両手足を使い上がる。梯子を前にCLが「手を絶対離すな!」と声を張り上げる。直角に備え付けられている長い二つの梯子を上り、9時5分穂先登頂成功。3180m槍ヶ岳。日本で5番目に高い山に登れた。混雑していなかったから約15分で上がった。午後は結構混むようだ。山頂は狭く、石が積みあがっているだけの様に思え、上るより、ここにいることの方が怖い感じがした。やたら動き回らない方が賢明だ。H嬢は今年の富士登山に続き、今年のハイライトになりそうだ。

記念写真を撮って、360度のパノラマビューを暫く堪能した。風もなく最高。9時17分下山開始。一方通行で違う梯子を下りる。「気を引き締めて行こう」のCLの掛け声に緊張しながら落ち着いて下りる。上りよりドキドキする。遠くを見るとめまいがしそうな高さだ。足場を確認しながらゆっくり下りて、槍ヶ岳山荘に9時55分。こちら側から見る槍ヶ岳はスマートでカッコイイ。こうでなくっちゃ!休憩、昼食を摂る。槍ヶ岳山荘のキッチン槍の営業時間は10時30分。CLから常々聞いていた、生ビールが1000円、ラーメンが1000円。残念なことに食べられなかった。

10時30分、後半スタート。飛騨沢組と南岳縦走組の2班に分かれた。私は当初の計画書通りの南岳縦走を選び、皆さんにご迷惑にならないよう頑張ろうと思った。南岳からの下山のコースタイムが3時間という事だけが心に引っかかっていたが、まだ、10時半と思うと何とかなるかな?!

槍ヶ岳山荘からキャンプ場を通り過ぎ 飛騨乗越まで下る。時々振り返りながら、槍ヶ岳を背中に残していく。それから一変 3020mから大喰岳 3101mまで上る。一見 素敵な尾根に見えるが、昼食の後の上りは応える。きついと思いつつながら、10時50分大喰岳到着。写真を撮り、次に進む。大喰岳と中岳の間には雪渓が多く見られる。これは根雪?今、溶けなければ雪解けはありえない。こんなに太陽が当たるのに不思議だ。80cmくらいはある。山スキー大好きなTさんは嬉しそうに「滑れるかもしれない!CLがいたら話が聞けたのに、残念」と言っていた。

この登山道の所々に、草花が咲いている。ガレ場を上がって行くと、梯子が2本見える。またかと思いつつながら、上がるとすぐ山頂だ。11時29分 中岳(3084m)到着。遠くになってしまった槍ヶ岳はより精鋭に見える。写真を撮り小休止。ここまであっけなく来れた。



西鎌尾根上部



四葉塩竈



笠ヶ岳



槍にアタック



南岳に続いている稜線はとても素敵に見える。北アルプスを満喫できそうな縦走路のようだ。赤い屋根は南岳小屋？中岳の頂上の一番南側に行き、稜線の確認をしたところ、一旦100m位下がらなければならないようだ。驚いたが、仕方がない。ガレ道をぐんぐん下がる。ガレ道を下がった所に水場を発見。雪渓がありそれからちょろちょろ水が流れてくる。キャンプ禁止になっていた。SLのTさんは飲んだがお腹をこわさなかった。中岳からみた、天空の稜線に至るまでのガレ道は簡単ではなかった。厳しい上り返しだった。

だが一旦上ったら、そこは稜線の緩やかな上り、爽やかな風、これこそ北アルプス。ちらほら見える雪を眺めながら、後ろには槍ヶ岳、前には穂高連峰。至福の時間だ。天狗原に12時26分。通り過ぎ、常念岳を眺めながら別天地を歩き続ける。12時44分南岳(3032.7m)到着。槍ヶ岳をバックに記念撮影。ここまでが、天空の散歩道だった。小休止して南岳小屋まで下る。

13時4分小屋を横切り槍平方面に下山開始。コースタイム3時間の始まりだ。最後の槍ヶ岳の穂先を見て、急坂を下る。とにかく、急なガレ道が1時間ほど延々と続く。辟易してしまう。「槍平方面1999年開通新コース」と書かれた看板のあるコースを歩く。以前の事はよく解らないが、山の斜面を見ると九十九折になった登山道が現存している。しかし、何らかの理由で使われなくなってしまったようだ。そのコースはどんどん山を下りて、槍平方面に行っているような気がする。

新コースはドキドキのコースだった。CLがいたら、ハーネスを装着するように指示が出たかもしれない。最初のお出迎えは雪渓だ。SLのTさんが慎重にステップを付け横断、次はすぐに梯子。どうもこのコースは一旦山に上がり、尾根を伝って南沢まで行くようだ。梯子をサッサと登り切った所で前方を見て、びっくり！度肝を抜かれると言っても過言でない風景に「えっ！」としか声が出ない。道が無くて、木の橋だけがある。ハイマツを上手に使ったハイマツに支えられているだけの橋だ。工事現場の足場の様な感じ。天に「風だけは吹かないで下さい」と切に祈った。そしてハイマツの上に手すり無し丸裸の木の階段。その行きつく先はロープなし、鎖なしの切り立った岩場。本当にどうしようかと思った。慎重に下り、14時20分までは緊張の連続。そしてなぜか飛騨沢で見た救急箱と同様なものが置いてあった。

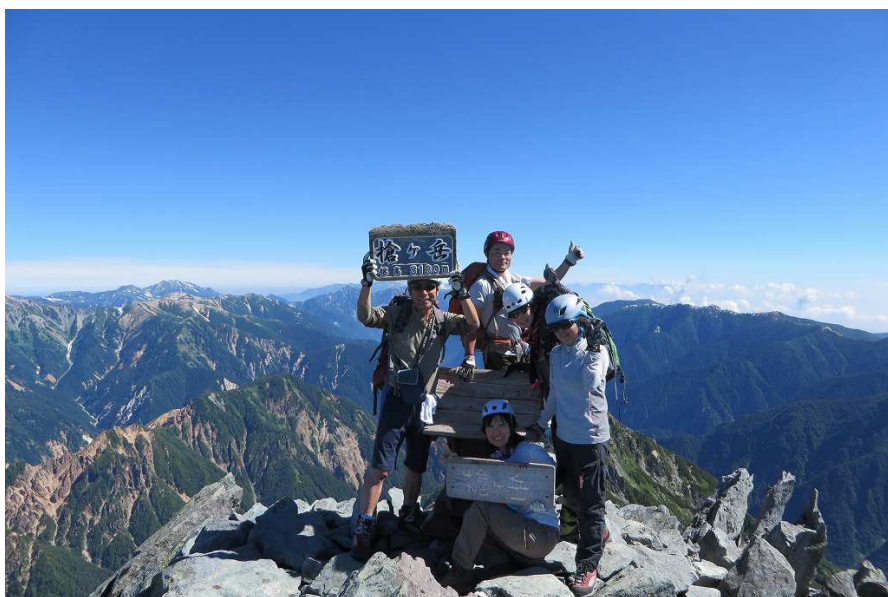
難所を過ぎ、植物も増えてきて、少し緊張感が解れたと思ったらつかの間、今度は連続の木製の壊れた梯子。足を降ろす位置に細心の注意を払う。気を緩めると滑るか、梯子が折れるかどちらかだ。1時間ほど下ると真下に、槍平小屋が見える。予定ではあと1時間は掛かる。見えるけれど400m位上にいるようだ。3000mに居た時と違って、気温が上昇しとにかく蒸し暑く、お水が欲しくなる。SLは給水の時間を時々取ってくれるが、長くは休憩しないように心がけてくれている。緊張が解れると怪我をしやすいのこと。また常に注意喚起してくれる。有難い。

急降下の連続でつま先が痛む。とにかく怪我をしないように真剣におりる。やっとの思いで、15時59分南沢に出る。南沢を横断し、槍平小屋に16時13分到着。



頂上の祠

記念写真





キッチン槍



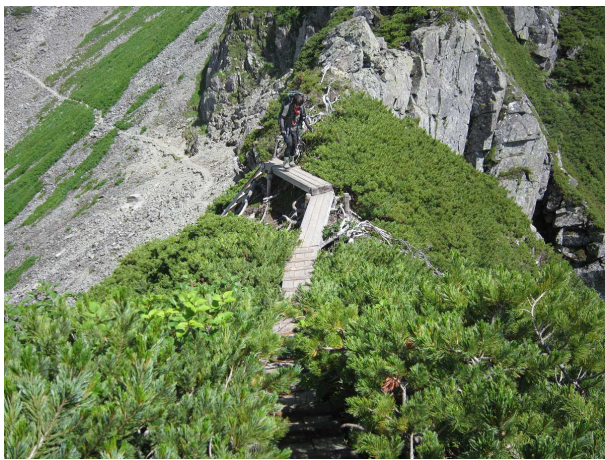
カッコイイ槍



中岳



南岳で槍ポーズ



南岳から槍平に下る



ヤッタ～！！
ご苦労様でした！！





イエ～イ、槍に上りました～！！

魔の3時間は終了。頭から水を被って身体を冷やしたい気分だった。非常にお疲れ様でした。みなさんのお蔭です。心から感謝。

小屋の夕食が5時30分。今日は日曜日なのに小屋は満員。高齢者の団体のようだ。夕食終了後テントにて反省会。テント場はすっかりさびしくテントが5張りくらい。昨日の土曜日は若い団体が賑わっていた。食材の事や虫（とにかく多い）の話で盛り上がり、雨が降ってきたのでお開きにした。

小屋は4人や6人部屋に分かれていて助かる。荷物置き場の様にずらっと並んで寝るのは睡眠が浅くなるので苦手だ。今回は熟睡した感がありよかった。女子だけの同室という配慮も有難い。着替えをするのに遠慮がいらぬ。睡眠と食事が体力のカギですね。明日はまた3時間の下りだ。 (了)

その他の記述（後藤）

1. 出発は、定刻出発で士気を維持したい。
2. 飛騨沢から、西鎌尾根経由登山者は、少ない。
3. 皆さん、槍の上り・下りとも、全く問題なかった。
4. 南岳下山の仲間の為、飛騨沢でビアを冷やして待機した。下山した皆に喜んで貰えた。
5. 槍平で交流。愛知から来た72歳の男性は、翌日、南岳テン泊し、槍平に下ると言っていた。南ア深南部情報とか詳しく、T葉と大いに意見交換をしていた。また、静岡市の永野夫妻・沼津市の加田さんを良く知っていた。永野さんの本は、主に奥様が書いているようだ。
6. ほか、松本市の77歳の男性は、槍から6Hで下った来たという。(普通、ゆっくりでも2H)

山が好きで、槍は50回くらい上ったという。先輩の教えは、「上りは心臓で上れ、下りは眼で下れ」だそうです。松本在住だが、「カモシカ」には行かなという。

7. もう一人、何と裾野市のヤクルト勤務の若い衆（と言っても40代だが）と交流。南岳のハシゴで落下し、足を痛めたといい、足を引きずって歩いていた。
8. キャンプ場のトイレは、暗くて狭くてイマイチ。テン場代金は、一人一日1000円。しかも、毎日要件を用紙に記入し届を出す。かなり面倒。テン泊は、本来、小屋のトイレは使えないらしいが、使わせて貰った。
9. 小屋のビアは350MLが500円。2日で少なくとも、5000円やってしまった。小屋内の水槽に冷やしてある。料金を払って自分で持って行く。特に小屋の方は、チェックは、していない。10本くらい買えば、1本くらい、誤魔化しても分からない。しかし、それは、絶対出来ないものだ。
10. テン泊初日、飛騨沢の音が凄く、夜中に起きてしまった。二日目は、疲れもあり、気にならなかった。テン泊は3名。全員、シュラフカバーでOKだった。

以上